

もらえる仕組みづくりなどに取り組んで行きたいと考えています。

また、振り込め詐欺、空き巣、窃盗等の事件が多発する時期ですので、関係機関との連携して啓発に努めていきたいと考えています。

税関系
収納率向上のため、副村長を本部長とした「特別対策本部」を設け12月末までの期間、全管理職と税務担当職員による滞納世帯の臨戸徴収を実施し、今年度も引き続き新たな滞納者を増やさないように、現年度課税分のみ滞納世帯を重点的に徴収することとしています。

飯館村戦没者追悼式

現時点での村税の収納状況は、前年並みの収納率となっております。また、今回が初めてのケースとして悪質高額滞納者に対する徴収強化の一環として、不動産の公売を行うこととしました。

飯館村戦没者追悼式を10月26日に村公民館で開催しました。この追悼式は3年に1回村主催で開催しています。

ごみ処理対策
村の可燃ごみは、昨年の10月1日から南相馬市へ焼却処分を委託して1年が経過したところですが、現在のところ特に問題もなく順調に推移しています。

当日は、遺族会や英霊にこたえる会の会員、村関係者など110人が出席し、黙とうや献花をし、戦没者の御霊を供養しました。

交通安全運動・防犯運動
12月10日から1月7日までの29日間、「年末年始における交通事故防止県民総ぐるみ運動」が行われます。

また、婦人会の演芸のほか、飯種幼稚園児や飯種小学生によるお遊戯や歌などが出席者に大変喜ばれました。

健康フェスタ
いたて秋まつりの一部として10月23日に実施しました。今回は、安心こども基金を活用

し、親子でサイクリングを通じてふれあいと健康づくりを目的とした「RE(り)サイクル事業」も併せて実施し、参加者は楽しく汗を流しました。また、健康相談コーナー、各事業の紹介を実施しました。

大きなお世話志隊」事業
第2回事業を11月6日～7日の2日間にわたり実施しました。テーマを「遊ぶ・創る・よくばり交流」とし、男11人、女12人の

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

民生・児童委員
今年、一斉改選の時期で民生委員27人、主任児童委員2人合わせて29人が改選されました。29人中10人が退任し、新たに10人が委員に加わりました。

12月3日に、厚生労働大臣からの委嘱状と村介護福祉相談員の委嘱状の交付式を行いました。任期は、22年12月1日から3年間です。昨今の村民を取り巻く環境は日々変化し、今後の民生・児童委員の活躍が期待されます。

ホームヘルパー養成講座

10月6日に2級ホームヘルパー養成講座の開講式を行いました。

この講座は、通信教育講義58時間、実技42時間、実習30時間を修了し、2級ホームヘルパーを養成するものでありますが、現在、飯館高生12人、一般11人、合わせて23名が受講し、23年3月の修了を目指し学んでいます。

農作物の出荷状況

水稲について平成22年の作況指数は、県平均が103のやや良で、村も104のやや良となっております。

出荷状況は、高温障害による品質の低下、イモチ病・カメムシ等の被害も見られ、うるちとモチ米の1等米は15.392俵で全体の49.5%、2等米は13.216俵で全体の42.4%となり、昨年に比べて1等米は9.3ポイントの減、2等米は5.1ポイントの増になっています。

J Aの米集荷状況は、うるち・モチ米、合わせて29.328俵の出荷申出に対し、11月22日現在で31.130俵の出荷があり、106%の集荷率となっております。しかし、うるちとモチ米の仮渡

し、親子でサイクリングを通じてふれあいと健康づくりを目的とした「RE(り)サイクル事業」も併せて実施し、参加者は楽しく汗を流しました。また、健康相談コーナー、各事業の紹介を実施しました。

23人の参加者がドライブや料理等で交流を深めました。特に、今回は企画の段階から、村内男性代表が参画し、内容、実施方法等の協議を重ねました。女性参加者アンケートで、「飯館村は、あなたにどのようにつりましたか」との問いには、「自然が豊かで、人が温かい場所」、「んびりした空気のきれいな場所」等と自然に対しての声が高く、また、「参加者の中に気になる方はいらっしゃいましたか。また、連絡を取る約束などなさいましたか」との問いには、「意中の相手を見つけ、連絡をとる約束をした」等の回答がありました。

ふるりの健康づくり

福島学院大学との相互協定に基いた公開講座を10月26日いちばん館で開催しました。講師に福島学院大学メンタルヘルスセンター玄永牧子さんを講師に「人は、一人では生きられない。支え、支えられる存在であること」をテーマに学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

また、11月4日には東洋医学情報センターの専務理事藤井弘泰さんを講師に「東洋医学の不思議な話から」と題し、健康の三原則、これからの健康管理と食生活について学びました。人間の元気の元は「生命エネルギー(気)」であり、気が衰えたり、病んだりすることで様々な症状がでることなどを学びました。

花卉の出荷状況

村の花弁は、生産量は横ばいですが猛暑の影響を受け、全体の販売額で約1億5千1百万円、前年対比91%の約1千5百万円の減少となりました。

トルコギキョウは、相場低迷時に出荷のピークとなったため販売額が激減し、約9千8百万円程度にとどまり、前年対比90%の約1千1百万円の減少でした。

リンドウは、作付面積が増えたことと、お彼岸向けに一定程度の出荷ができたことなどから、販売額が約3千5百万円、前年対比117%と約5百万円程度販売額を伸ばしました。

チェリートマトは、約3千9百万円で野菜の中で二番の販売額となっています。作付面積が増えたため前年対比159%と、昨年より約1千5百万円の増と非常に大きく伸びました。

春ブロッコリーは、春と秋を合わせ昨年より作付面積は増えましたが、約3千5百万円の販売額にとどまり、前年対比59%、約2千5百万円減と大きく減少しました。

施設野菜のキュウリは、例年よりも高い単価で販売され、昨年以上の約3千9百万円の販売額で前年対比110%です。

この増額分の交付金は、県の交

第3期中山間地域等 直接支払事業

今年度から村内19集落が取り組むことになり、10月28日に開かれた「飯館村第3期中山間地域等直接支払推進協議会」の臨時総会で最終的な各集落の対象農地面積と交付金額が確定しました。

対象農地面積の合計は、1.755ha、交付金額の合計は1億1,455万円、第2期対策に比べて、それぞれ645ha、4,966万円の増となりました。

戸別所得補償モデル対策

今年度から始まった戸別所得補償モデル対策のうち、米戸別所得補償モデル事業については、定額補償交付金と価格変動補てん交付金の2本立てで構成されていますが、このうち作付面積10ha当り15,000円の定額補償交付金については、合計で約9,600万円余りが、12月9日交付される予定です。

一方、水田利活用自給力向上事業については、飯館地域水田農業推進協議会の臨時総会で、県による「激変緩和調整」を上乗せしても平成21年度より交付単価が下がる転作作物について、協議会が独自に10ha当たり1,000円の基金助成することが決議されました。水田利活用自給力向上対策の交付額は協議会の基金助成と併せ